

水魚池

令和元年度
特別号 - 国語編

令和元年11月1日発行
札幌市立西岡中学校

<http://www.nishioka-j.sapporo-c.ed.jp/>

求める生徒像（目指す生徒像）

- ◇ 自ら進んで学習し、適切な判断や問題解決ができる生徒
- ◇ 豊かな人間性と社会性を身につけた生徒

今年度、4月に3学年を対象に行われた全国学力学習状況調査の結果から、本校の概要と課題、改善の方向について全国平均などと比較し考察しました。

記号のみかた（共通）△：上回っている ◇：ほぼ同程度だがやや上回る ◆：ほぼ同程度だがやや下回る ▼：下回っている

本校の概要

今回の調査における課題

改善の方向

国語

【領域】

□「話すこと・聞くこと」の平均正答率
▼下回っている

・話し合いの話題や方向を捉える部分の正答率は全国平均並みであったが、「相手に分かりやすく伝える表現」「話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ」の2点で正答率が良くなかった。

□「書くこと」の平均正答率
▼下回っている

「論の展開にふさわしい語句や文の使い方」「根拠を明確にする」の2点で正答率が良くなかった。

□「読むこと」の平均正答率
▼下回っている

・文学的な文章について、「見方や考え方について自身の考えをもつ」の正答率は全国平均並みだった。
・説明的文章について、「根拠を明確にして自身の考えをもつ／情報を整理し、内容を捉える」の正答率が良くなかった。

□「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の平均正答率
△上回っている

□「話すこと・聞くこと」

▼話題の内容を捉えている生徒は多いものの、それに対しての「自身の考え」をもつという点でつまずきがある。

□「書くこと」

▼「話すこと・聞くこと」同様に、「自身の考え」がなくてはならず、根拠を明確にして、説明できる力が必要である。

□「読むこと」

▼解説、論説といった説明的文章を読む機会が少ないこともあるかもしれないが、内容理解の時点でつまずきがあるのではないかと考えられる。

【課題総括】

表現面では、表現する上での確かな「自身の考え」がもてていないことが課題といえる。読解面では「説明的文章」の理解力が課題といえる。

■「話すこと・聞くこと」

⇒自身の考えをもつためには、話し合いの話題に対して、
①誰と何について話し合うのか。
②何のために話し合うのか。
をよく理解しなければならない。それらの点で苦手意識をもつ生徒にはメモを取る事も有効と考える。加えて、普段から話し合いの際には自身の考えをもちながら参加するように指導する。

■「書くこと」

⇒「話すこと・聞くこと」同様に、普段からの意識が必要なのに加えて、根拠を明確にすることや、効果的に伝える言葉の選択の大切さについて伝える。

■「読むこと」

⇒説明的文章を読む機会を増やす。
・自身の考えを求められた際には、本文を引用するなど、根拠を明確にして自分の考えを述べるように指導する。

■「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

⇒特になし

《学習指導要領の領域》

区分	全国との比較(A)
話すこと・聞くこと	下回っている▼
書くこと	下回っている▼
読むこと	下回っている▼
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	上回っている△

水源地

特別号 数学編

<http://www.nishioka-j.sapporo-c.ed.jp/>

記号のみかた（共通）△：上回っている ◇ほぼ同程度だがやや上回る ◆ほぼ同程度だがやや下回る ▼下回っている

本校の概要

今回の調査における課題

改善の方向

数 学

【領域】

「数と式」の平均正答率

◇同程度

・式の変形や変形された式がもつ意味の理解に関する問題は正答率が高かったが、連立方程式や事柄が成り立つ理由を説明（証明）する問題については正答率が低かった。

「図形」の平均正答率

◇ほぼ同程度だがやや上回る

・与えられた数学的な用語の意味や合同条件など知識を問う問題について正答率が低かった。

「関数」の平均正答率

◇ほぼ同程度だがやや上回る

・すべての問題で正答率が高かった。

「資料の活用」の平均正答率

◆：ほぼ同程度だがやや下回っている

・いくつかある代表値のうち、問題解決に適切なものを選択する問題で大幅に正答率が低かった。

「数と式」

▼式の変形やその意味など知識として身につけているが、それら用いて問題を解決する技能については課題がみられる。

「図形」

▼数学で用いられている特別な（日常生活で使わない）用語の理解が不足している。

「関数」

▼すべての問題で平均正答率が高かったが、日常的な事象を数学的な視点で考え、解決する力には課題がみられる。

「資料の活用」

▼基本的な用語や資料の整理・活用の仕方の理解に課題がみられる。

「数と式」

⇒日常的に計算練習など数学的な技能を高める機会を設け、評価していく。

「図形」

⇒基礎的・基本的な知識の習得に力を入れ、数学的な表現やことばの良さ、有用性に気付かせる指導を行う。

「関数」

⇒日常的な事象を数学的に捉えるために、生徒が身近に感じられる適切な教材を研究し・展開していきたい。

「資料の活用」

⇒資料の整理・活用にあたっては、資料の提示の仕方を工夫するとともに、コンピュータも活用したい

《学習指導要領の領域》

区分	全国との比較(A)
数と式	同程度
図形	やや上回っている◇
関数	やや上回っている◇
資料の活用	やや下回っている◆

水源地

令和元年度
特別号 英語編

令和元年11月1日発行
札幌市立西岡中学校

<http://www.nishioka-j.sapporo-c.ed.jp/>

記号のみかた（共通）△：上回っている ◇ほぼ同程度だがやや上回る ◆ほぼ同程度だがやや下回る ▼下回っている

本校の概要

【領域】
「聞くこと」
△上回っている。
すべての問題において、正答率は全国平均を上回っていたが、「対話を聞いて解答する」問題に関しては、一問一答形式の問題よりも正答率が低かった。

「話すこと」(参考値)
△上回っている。
会話を聞き、即興でやりとりをする形式の問題に関しては、やりとりの内容をふまえた解答ができていないものが多かった。

「読むこと」
△上回っている。
おおむね全国平均以上の正答率であったが、状況を説明する英文を読み、その内容について答える問題に関しては、全国平均を下回っていた。

「書くこと」
△上回っている。
正答率では、全国平均並み、またはそれ以上であったが、「英文を読み、自分の考えを述べる問題」や「与えられた情報をもとに英語で説明する問題」に関しては、正答率がやや低かった。

今回の調査における課題

「聞くこと」
▼聞いて把握した内容について、話し手の意図や状況を理解した上で、自分の考えや思いを伝えることに課題がある。

「話すこと」(参考値)
▼質問に対して、即興的に基本的な表現を用いて解答することや、やりとりをすることを苦手とする傾向がある。
▼適切な強勢やイントネーションでの発話に課題がある。

「読むこと」
▼資料を読み、書かれている内容や書き手の意見などを捉え、自分の考えを伝えることを苦手としている。

「書くこと」
▼与えられた情報に基づき、適切な動詞の活用や、学習した基本的な文法を使用して、正しい英文を書くことに課題がある。
※全体的に「正しい英語の語順」「応用できる文法力」「自分の意見をもち、相手に伝える」ための考える力に課題がある。

改善の方向

「聞くこと」
⇒聞いた内容や意図を理解するだけでなく、様々な目的・状況に合わせて、自分の考えと結びつけて応答する取り組みを意識して指導する。

「話すこと」(参考値)
⇒「間違いを恐れず、発話する意識」や「文法力(語順の意識)」を身につける練習、「自分の意見を表現する力」を高める活動を通し、「会話力」が高められるような指導を目指す。

「読むこと」
⇒英文を読み、内容理解をするだけでなく、「読み手」としてどう考えたのか、という自分の考えを伝えたり、相手がどう考えるのかを理解する活動を増す。

「書くこと」
⇒学んだ英文法を、使用する場面や状況、目的に応じて、繰り返し活用する言語活動の充実を目指すとともに、学習者が誤りに気がつけるよう促し、学習内容が定着するよう指導を工夫する。

《学習指導要領の領域》

区分	全国との比較
聞くこと	上回っている△
話すこと(参考値)	上回っている△
読むこと	上回っている△
書くこと	上回っている△

水原池

特別号 学習状況調査編

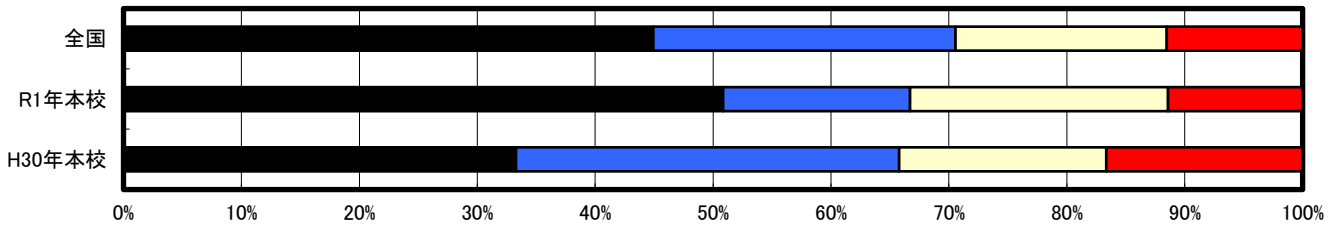
<http://www.nishioka-j.sapporo-c.ed.jp/>

全国（上段）・本校生徒の令和元年（中段）・平成30年（下段）3つの回答を比較しながら、変化が顕著なものや本校の特徴が見られるものを抜粋してお知らせします。（昨年度の比較データがないものについては、全国との比較のみ表示しています。

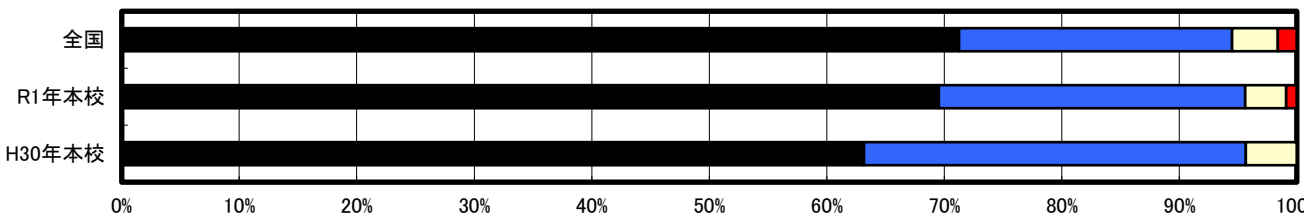
■ →あてはまる ■ →ややあてはまる □ →ややあてはまらない ■ →あてはまらない

回答状況 △：上回っている ◇やや上回っている ◆やや下回っている ▼下回っている

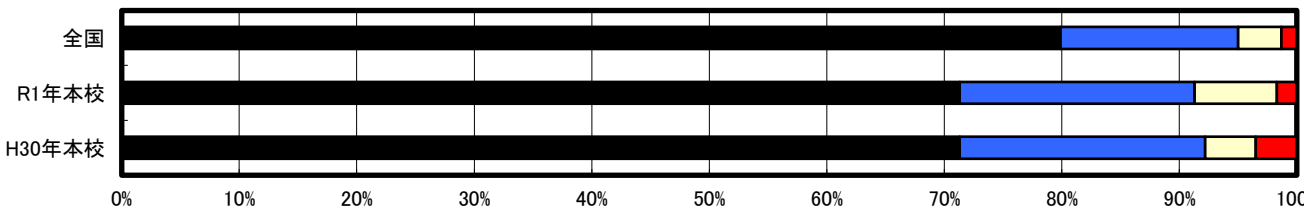
○将来の夢や目標を持っているか。 ◆夢や目標を持つことで今をよりよく生きる



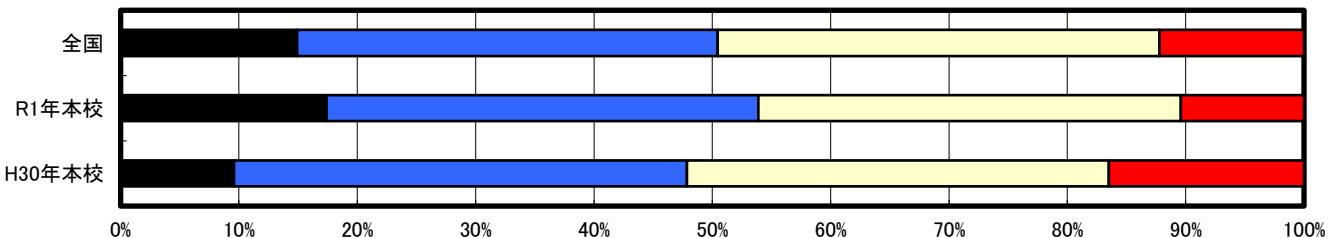
○人の役に立つ人間になりたい。 ◇社会に貢献できるような資質を身につける努力



○いじめはどんな理由があってもいけないことである。 ◆いじめ防止の意識を高める

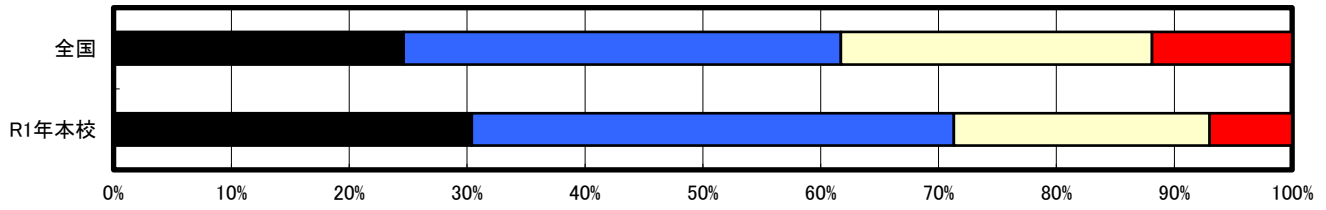


○家で、自分で計画を立てて勉強をしているか。 ◇家庭学習における計画性の定着



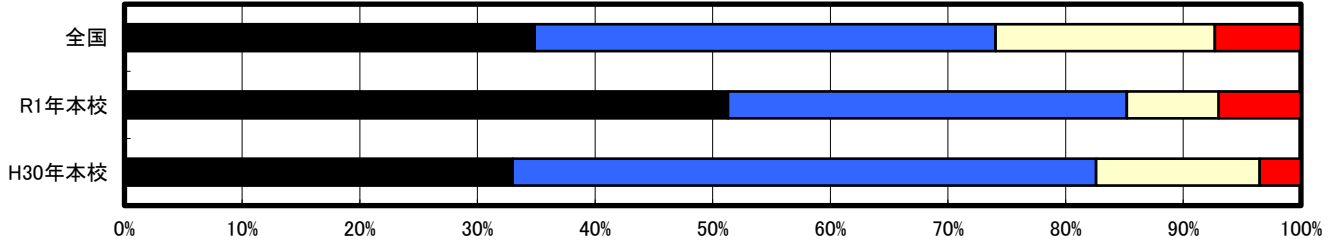
○国語の勉強は好きですか。

△国語の学習意欲

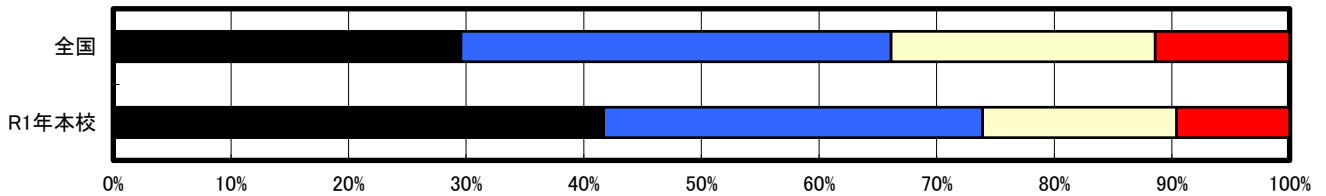


○数学の授業内容は、よくわかりますか。

△数学の理解・達成感

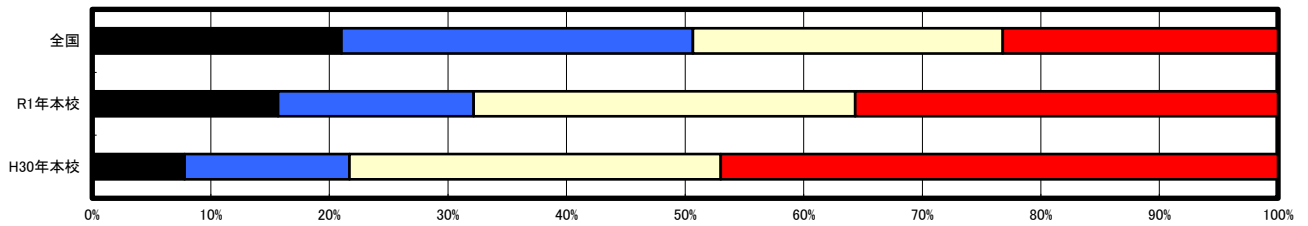


○英語の授業はよく分かりますか。(今年度実施) △英語の理解度



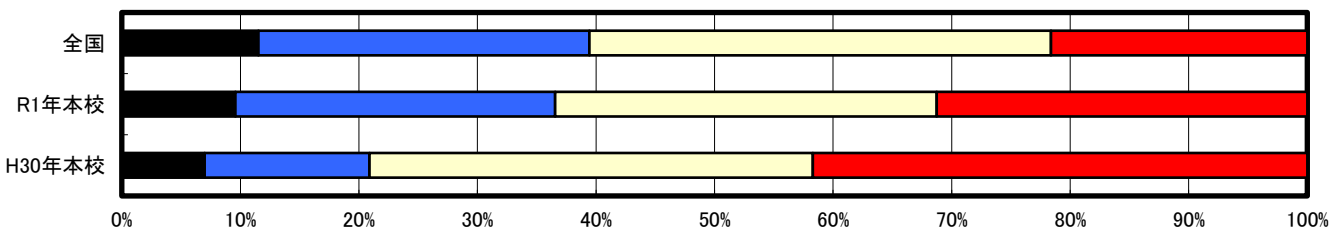
○今住んでいる地域の行事に参加していますか。

▼地域とのかかわり



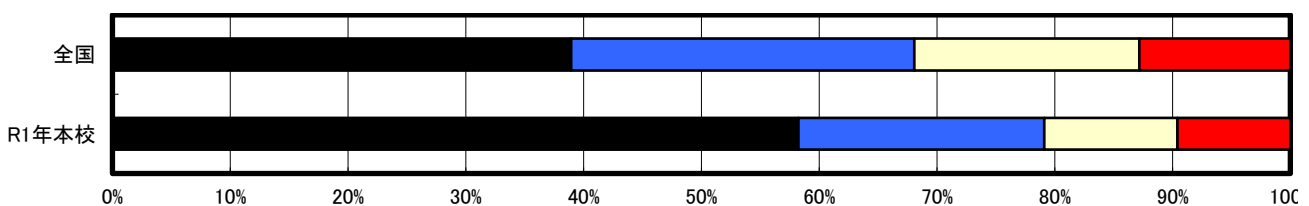
○地域や社会をよくするために何をすべきか、考えることがありますか。

◆自身の社会貢献について



○読書は好きですか。

△本に親しむ読書習慣



＜今年度の結果から 本校の課題とこれからのに向けて＞

今年度4月18日に実施しました「全国学力学習状況調査」の結果から、本校の現状とこれからの課題について考察しました。学習面(国数英3教科)と生徒質問紙(生活などの状況)ともに、本校の傾向は概ね札幌市全体の傾向と共通しているところがありますが、より良い西岡中学校にしていくために、工夫と改善を続けていきたいと思います。

学習面について（国語・数学・英語の結果から）

「授業が好き」「よくわかる」といった、授業や教科への好意的な受け止め方が数値に表れていました。学習に向かう意識や読書の習慣など、知的好奇心をもって取り組む生徒の実態が感じられました。しかし、学力に関する結果では、国語と数学で全国平均を下回る領域があり、学習内容の理解と定着の度合いが心配されます。また、学習に関連する「自分で考える」「自分の考えを伝える」といった設問で、全国平均を10ポイント以上下回るものもありました。

学力向上のために必要な要素として、「学習活動に取り組もうとする気持ち」「将来にわたって生きる力となる知識や経験」「とらえた事象を理論的に考察し、議論によって考えを広げ、効果的に表現する学習活動」があげられます。2021年度から本格実施される新学習指導要領では、すべての教科で「学びに向かう力」「知識・技能」「思考・判断・表現力」という3つの観点によって評価が行われることになっています。

もっている知識や経験を自らの思考によってつなげ、新たな価値を創造するといった「新しい学力観」に向かって、各教科の学習指導だけではなく、特別活動や道徳、総合的な学習の時間を含めた教育課程全体で、方向性をもった教育活動を、保護者・地域の方々とのかかわりによって展開していくことで、生徒の力を伸ばしていく必要があると考えています。

生徒質問紙による学習状況調査から

生徒質問紙からは、全国平均を上回る結果が多く見られました。

「自分で計画をたてて学習に取り組んでいる」という生徒の割合が昨年度に比べて6ポイント上昇し53.9%となりました。また、「読書が好き」と回答している生徒の割合が、全国と比較して11.2ポイント多い79.2%という結果になっています。ご家庭のご協力により、小学校から継続して朝読書などに取り組んできた成果だと思えます。このほかにも、地域とのつながりを測る項目からは、昨年度を上回る結果が見られました。

一方で、就寝時刻と朝食について心配な傾向が見られます。同様の傾向が、先日お配りしました「札幌市学校給食栄養士会」による『生徒の健康と食生活に関する調査』の結果にも見られます。「遅寝遅起き」「朝食を食べない」という傾向が、本校生徒に徐々に広がってきていることがここ数年のデータから読み取れます。

普段の生活に関する設問で好ましい回答をしている生徒集団の方が、各教科の正答率が高い傾向があることが、全国集計の結果からも顕著に表れています。「基本的な生活習慣」や「社会とのつながり」と「生徒の学力」との関連を検証しながら、より効果的な学習指導を模索していきたいと思えます。

おわりに

今年度の3学年で実施しました「地域清掃ボランティア活動」では、まちづくりセンターの方や町内会の皆様を中心に多くの方々のご協力をいただきました。不手際からご迷惑をおかけした反省点もありましたが、本校教育活動の可能性を広げる貴重な機会となりました。ご協力をいただきました皆様に、心より感謝申し上げます。

全校道徳やキャリア教育にかかわって、多くの講師の方々にもお力をいただいております。経験に裏打ちされたお話は、生徒が見方を広げることにつながる良い経験になっています。今後も、保護者・地域の皆さまがもっているお力を、本校の貴重な教育資源としてさらに活用させていただければと願っています。

札幌市全体で推進している「さっぽろっ子学びのススメ」を活用しながら、本校教育活動の中で「計画し、実行してみ、振り返って考え、また次の行動を起こす」という『PDCA サイクル』によって、より良い教育活動を実践していきたいと思えます。今後ともご理解とご協力をお願いいたします。

※全国学力学習状況調査の詳細につきましては、次の資料をご活用ください。

〔参考：国立教育政策研究所HP〕

- 解説資料…<https://www.nier.go.jp/19chousa/19chousa.htm>
- 報告書…<https://www.nier.go.jp/19chousakekkahoukoku/index.html>